

## ミスター・K の英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー

千葉大学 教育学部 学校教員養成課程

東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師

加瀬 政美

### 【第19号】 小・中学校向けバージョン 読みの指導で指導者が意識すること

前号の続きです。小学校の段階で、中学校を見据えて指導していくうえでさらに効果的な方法を紹介します。小学校の段階ではまだ次の2つは早いですが、指導者としては次のステップを知っておくことで、指導の幅が広がることだと思います。

それは、①「シャドーイング」、②「パラレルリーディング」です。その効果的な指導手順を示します。①②とも、つまりネイティブスピーカーの後追い発話ですが、①は、文字を見ないで耳と口を使うのに対して、②は、文字を見ながら目と耳と口を使うことがポイントです。①の方がレベルが高く、不安な場合は、②から入り、文字と音を結びつけてからだと安心できます。いずれにしても、指導は実態に応じてが大事です。😊

①②とも、ネイティブスピーカーの音声を活用して、徹底的に真似ます。目的は、ネイティブスピーカーの発音とリズム感を自分の感覚に定着させ、スピードある発話の習得です。聞こえたとおりに言いながら、まさに影(shadow)のようにについていきます。どこがついていけないか自分の弱点を知ることもできます。

ここで問いただす。 ？？？

- (1) あなたが現場で指導している先生だったら、何回ぐらいの計画で行いますか？
- (2) 授業のReadingどの段階でこの指導を入れますか？
- (3) 音読の後、読解の前に入れるのか、それとも音読、読解、まとめの段階で入れるのか？

ここはすごく大事なところです。

シャドーイングが有効なのは、誰でもわかります。大学の英語科教育法でも習います。授業のどの段階でどの程度、そしてどう刺激を与えていくことが指導力というものです。指導者自身、指導法を知っていることと指導力があることは違います。指導力は、現場で実践を通して培われるものです。その経験値から、揺るぎない指導力がついていきます。😊

成果が上がるるのは、回数的には10回程度です。このぐらい回数を入れないと、自分の中にはなっていません。また、仕上げに行うのが効果的です。音読して、読解して、その次にこれらの題材を活用して表現につなげていきたいのです。だから、最後のステージで、「読めるようになったし、内容理解もできた。じゃ、仕上げにシャドーイング行くよ。」って感じです。そして、できるかどうかがポイントではなく、できるようにする過程で、「英語と音とリズムの感覚」を身につけて、かつ学習している英語も使える形で身につけてしまうのが目的です。それを常に頭に置いて、焦らずにこの学習ツールで学ぶという感覚です。

しかしながら、その中でも、この段階についてこられない子に絶対出会います。その場合、どのような工夫が必要か次号で解説します。

2026年が明け、まとめの時期になってきました。教科書を使用してどうまとめていこうかと悩む時期でもあります。是非とも「音と文字と繋がりを意識して」が大事です。